

ジャノメチョウの生活

北海道で観察できた、ジャノメチョウの一年間の生活を見てみます。

ジャノメチョウは、北海道～九州に生息し、成虫は7月下旬～8月上旬に現れる年一化の蝶です。

一見地味なイメージの蝶ですが、明るい草原に産し、花に良く集まるので、目にすることも多い蝶です。

その周年経過の中で、「成虫の放卵」「孵化までの長い卵期」「若齢での越冬」「多種類の食草」「夜間摂食」「地中の蛹化」、等々非常に興味深い生態を見ることができ、その観察を継続してきました。

以下は、美々における幼虫の観察になります。

北海道の春、雪解け



(17/4/1)



(18/3/31)

雪が残る、枯草で覆われた茶色の寒々しいフィールド。

ただ、地面に近づき目を凝らして見ると、枯れた植物の中を伸びてくる新緑に、春を感じることができます。



17/4/1: 雪の残る茶色のフィールドで



伸びる新緑の葉をよく見ると、食痕がある。

ジャノメ若齢の食痕は葉の側面を「台形にくり抜いた形」が多い。
(写真では葉の先も食べられている)

食痕のある株。
その根元を指でほじくると...

ジャノメの幼虫が見つかりました。

斜面で探す時は、
食痕のある株の根元の、
斜面の下側からほじくります。

幼虫は非常に敏感で、
刺激があると、コロンと落ちてきます。

この幼虫は2齢でしょうか。体長を
測ってみると、8ミリくらい。



17/4/1: 他を探していると摂食中の幼虫発見！



ジャノメ幼虫は若齢～終齢まで、このように腹脚で葉をはさみ、頭を上下させ摂食を行う。

摂食終了後、ゆっくり下を向き、ゆっくり降りていく…



(17/4/1)16:07摂食中を発見。7.4℃。
撮影していると、幼虫が下がり始め、下に着いてから見失わないように追いかけて撮影しました。
枯れた茶色の中のまばらの新緑。この時期、実は「割と見つけやすい」のかもしれませんが。

17/4/2: 早朝の観察

↓早朝の摂食



6:22で1.5°C。
葉の先の水滴が氷
になる位。
食痕頼りに1頭発見。



8:00「摂食中」を発見。
太陽が出ると5.5-6.5°C
を上下する。しかし車
に乗り外気温を見ると
4°C前後。土の上は暖
かいらしい。

19/3/30: 続・早朝の摂食

7:31 気温10°C
「摂食中」発見
葉上13.8°C
7:57まで観察

別のを探すが見つ
からず
8:36戻るとすでに
摂食終了→ → → →
根元を探すと...↓



春先 美々 ジャノメまとめ

2017～19春先に見ることができたジャノメ幼虫は、推定全て2齢。

左の早朝幼虫は中～終齢に典型的な「葉先斜め切り」摂食。

下・右写真では、「葉先から半分」を摂食。(下写真では左の株は上から食べられている)

← 17/4/2朝の摂食幼虫 ↓17/4/1夕方の摂食幼虫 19/3/30朝の摂食幼虫→



雪が解けて春が始まる3月下旬には、すでに幼虫は活動を開始し、5°Cくらいでも摂食をしている。

摂食を観察できたのは、早朝と夕方。

真昼の活動は・・・？

数日間、終日観察すればわかると思うが...、今のところ未観察。

ここまでに、ジャノメ越冬は二齢がメインか？と感じています。

いつのころから活動を開始しているのだろうか？

(3月の上旬頃から観察を開始できればよいのだが...)

ということで、次は四月下旬に移ります

17/4/29: 美々の朝 AM5:00



↑四月下旬緑が少し増えた？
↓フキノトウが美しい



4/28 8時前後に2頭発見(上は同一個体)

14mm? 3齢くらいか。



17/4/28:夜の美々

夕方から観察を始め、夜の摂食を観察

17:50 9°C

最初の発見幼虫。何してる？
下がる最中。何ともぎこちない。



18:05には食べていた個体。下がりはじめは18:41。この時期は割と早い時刻に下がる。



あちこちで幼虫の摂食。19:50には、このように3頭そろい踏みが見られた。



17/4/28:夜の美々

20:08~20:22

食草から身を投げ出し動かないままの幼虫。
何をしている？何も変化せず。どうした？と思って
触ってみたら、通常通り食草から落ちて見失っ
てしまった。(途中、LEDライトで撮影してみた)



この日は、複数の幼虫を観察できた



この日最後の幼虫。20:38~49
その後見つからず、雨も降り始め
21:15に観察終了。



17/4/30 18:00
美々
横浜帰宅前にもう一度。
最後の観察



四月下旬のジャノメ幼虫は夜行性になっているようだ。

「日暮れ～21時あたり」がその活動時間帯に思える。

(気温の低下により早く降りる?)

三月下旬～四月上旬の夜間は、観察していない。

(気温が0°C近くまで下がるし・・・勝手に「いないかな～」とか・・・)

夜間摂食がいつ頃から始まるのか確認しようと、
19/4/11の19:55～20:24に探してみたが、未発見。

(ちょっと探索時間が少ない...!)

今後の継続課題かなと...

で、次は五～六月の様子。

17/4/27 雨の中傘さして...
20:00すぎ下りるジャノメ幼虫ようやく発見



18/5/10: 美々の夜

この後も、ジャノメを何頭も発見(4頭)。気がついたら22時すぎ

新千歳19:30着、一頭発見すると、近くに二頭発見。
興奮して観察・撮影

20:32



180510美々

撮影も一段落し、奥に行くと、また一頭...
「何か違う...」半信半疑でよく見ると、ヒメウラ！！
20:45、10°C



ジャノメは、
五月に入り、
体も少し大きくなり
夜も少し遅くまで見
ることができるよう
になった(?)

また、同時期には
ヒメウラナミジャノメ
の終齢も夜間摂食
をしている。

ジャノメもゆっくりだが、このとき見たヒメウラのゆっくりさは段違い。
摂食中も「えっ、食べてるの?」といった様子だった。

ジャノメの仲間の典型的な「斜め切り」食痕→

16/05/15-17: 美々の朝

明るい時間は？ということで、夜間観察翌日に食草の根元を・・・
この時期、明るい時間帯は成虫を追いたないので、夜間や早朝に動けるのは嬉しい！



← 摂食を確認できた食草や食痕のある株の根元を探すと...

このように体を丸めた幼虫が見つかる。指で掻き分けるので刺激で丸まってしまう、しばらくして動き始める。



枯葉の中に転がった幼虫をしばらく観察していると、枯れ枝の下に静止した。このような状態で過ごしているのだろう→→



18/6/7: 美々 夜

六月に入ると幼虫は急速に大きくなる。
21:00過ぎ、食草に登ってきてから摂食を始めるの
を見ることができた。



ジャノメは敏感。少しの刺激(光や衝撃)で摂食を止め、
口を離して頭を伸ばす「あ～」のポーズ。(右三枚)
食痕がよく分かる。この後落ちた個体もいる。

この日は、このように三種の食草を食べているのを見
ることができた。

それにしても、
観察&撮影を
始めると
時間が過ぎる
のが早い。



16/6/9: 美々 夜

20:22やはり葉の先端で摂食中。(葉が垂れ下がっている)



頭を離して硬直？

この時期の植物の生長は驚くほど。前月、葉の先に登って食べていた幼虫を考えると、

「こんな高い草の先端に行って食べる？」と不思議に思えた。それほど草丈は高い。

幼虫を探していると、突然「ガサッ」と音が。幼虫が先端に移動、葉が耐えられなくなり、折れ曲がった音だった。(上写真参照)

雨の中探して見ると、いくつかの幼虫が見つかった。終齢か。

光に反応。摂食をやめ頭を離し、何となく硬直姿勢？
草を寄せようとする、落ちた。



↑葉から落ちて...

ひっくり返す→



手に取っ
てみると
完璧に
硬直!
大きい!



16/6/9: 美々 夜

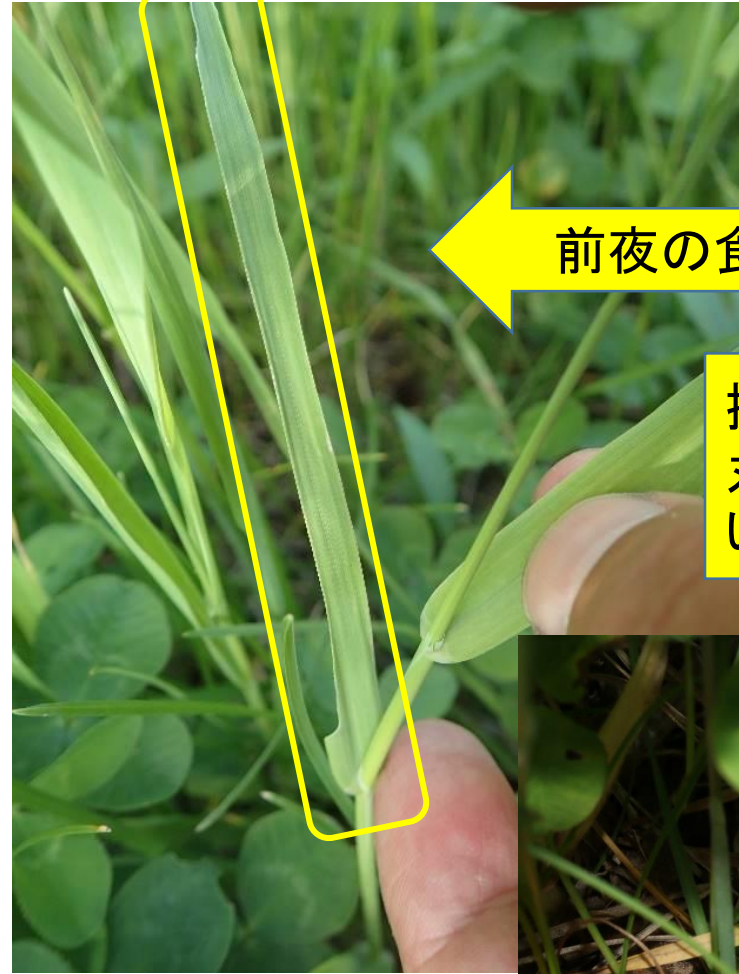


←↑ジャノメ幼虫は、毎回、何種類かの異なる植物上で摂食しているのが見つかる。(食草上の三態)



夜観察した場所をマークして翌朝見に行くのも面白い→→→→→→→→

16/6/10: 美々の翌朝



← 前夜の食痕

→ 探してみると、丸まっています



このくらいの距離の少し深いところにいました



2016/6/24: 美々 夜

寄生蜂? →

手持ちの資料では最終期の観察。

この時期の幼虫は最大になる。

体長37~38mm



不思議な光景 → → →

カ?
ユスリカ?
が

幼虫の側に
寄り添って
..



以上、見てきたように、5～6月の幼虫は成長が著しく、かなり大型になります。

幼虫の形態・生態はそれまでとほとんど変わりありません。大きくなるだけ。

早春「明るいうちの活動」から、四月中には「夜間摂食が中心の活動」になっていくのではないかと考えていますが、はっきりとした確証はありません。

夜間の活動時間は、早春における摂食時刻を考えると、季節の移り変わりに伴う気温の上昇とともに長くなっている、と考えられると思います。

美々では、食べているのが確認された植物は4～5種類ほど？になります。
食草の種類は、2021年度にはっきりさせたいと考えています。